

# 建設の 碑

美ヶ原の美しい塔

## 雪上銀河天空拳！

東日本建設業保証株式会社  
建設産業図書館

江口知秀  
Tomohide Eguchi

### 長

野原美ヶ原の山頂に建つ王ヶ頭ホテルに、なんと予約を取ることができた。かねがね、一度は泊まりたいと思っていたが、ここなら同行者に冬季登山の苦痛と危険を強いることもなく、冬の絶景を味わわせてやることができる。このホテルは標高二、〇三四メートルの高地にありながら、冬季も営業しており、客室、風呂、食事、スタッフのサービスなどすべてが至極一流で、窓外の景色がなければ、自分が山の上にいることを忘れてしまう。それに加えて、ホテルの周辺は急勾配もなく、冬でもホテルでスノーシューを借りれば気軽に新雪を踏みしめることができる。

美ヶ原のシンボル「美しい塔」には、山を愛した詩人尾崎喜八の「美ヶ原溶岩台地」が刻まれているが、冒頭の「登りついて不意に開けた眼前風景にしばらくは世界の天井が抜けたかと思う」というくだりは、まさに美ヶ原を言い表すに相応しく、樹林帯を抜けて広大で平坦な山頂台地を目にした登山者ならば、誰しも抱く素直な感慨だと思う。ここは天空にひらけた別天地なのだ。

ところで、登山家であり、随筆家でもあった深田久弥氏は、昭和三十九年に山岳随筆『日本百名山』を発表した。これ以後、百名山巡りがブームとなり、

今も多くの登山者が百名山完登を目指している。こゝ美ヶ原も百名山の一つに数えられているが、こういった風潮を苦々しく思う人々もいる。

深田久弥が勝手に選んだ百名山など、過剰に有難がるのは滑稽だといった意見もあるし、なにより百名山では多くの登山者を受け入れるために、整備が進められたことは間違いない。環境保護論者やアルピニストの批判の対象となっている。かくいう私も山を誰でも登れるようにするのは論外だと考えていた。

王ヶ頭ホテルのロビーにいますと、送迎バスが運んでくる客には、思いのほか、かなりの高齢者が目立つ。なかには明らかに脚が不自由な人もいます。彼らは登山のために身体を鍛えることもかなわない。こういったアルピニズムの範疇外にある人々も、ここでは山々が織りなす景色はもちろん、きまぐれなダイヤモンドダストやサンピラーなどの息をのむほど美しい自然現象を目の当たりにできる。私が同行者をここに連れて来ることができたのも、かつては否定していた開発者たちのおかげであることは否めない。

ひとりの時とは違った考えを抱く自分を軽く自嘲しながら、うす曇りの美ヶ原をスノーシューでペタペタと先行する同行者と歩いていると、不意に雲が

切れて雪原が光りだし、白銀に輝くアルプスの峰々や松本平が遠く姿を現わしはじめた。悪天候であきらめかけていた予期せぬ絶景に言葉を失う私の傍らで、「雪上銀河！」狂喜興奮した同行者は、いきなり雄叫びをあげてグルグル手を回し、「天空拳！」バツと決めポーズをとると、あつげにとられた私をおいて星を散りばめたようにキラキラ光る新雪の丘を、青空へ向かって駆けあがって行った。



美しい塔

【交通】王ヶ頭ホテルから美しい塔まで：  
冬季はスノーシューなどを装着のうえ約1時間

※碑文の全文は日連建HPに掲載しています。